

## 反転が生み出す論文執筆のブレークスルー ー ディスカッションベースの論文投稿ファシリテーション ー

オーガナイザ：松浦 健二（徳島大学），後藤田 中（香川大学），  
高木 正則（電気通信大学），近藤 伸彦（東京都立大学），  
山元 翔（近畿大学），林 佑樹（大阪公立大学），  
油谷 知岐（香川大学），吉原 和明（近畿大学）

JSiSE 学会誌編集委員会では 2015 年まで、全国大会プレカンファレンス企画として、チュートリアルを実施してきました。以下は、これまでの本企画のチュートリアルの例です。

- ・ 編集担当委員が語る JSiSE 論文投稿入門
- ・ 論文投稿から掲載までの流れ、投稿に際しての注意
- ・ 論文種別と採録基準ー現状と改訂の方向性ー
- ・ 査読の観点と査読コメントに対する対応のノウハウ
- ・ 教育現場の取り組みを実践系論文にまとめるには
- ・ 採録される論文の書き方ー誌上チュートリアルー
- ・ 教育システム情報学における質的データを扱う学習評価のミカタ

学会誌では、2020 年から、論文の「問い」や面白さを著者が語る「採録論文/受賞論文ハイライト」を学会誌に掲載する取り組みを始めています。本ハイライトは著者が読者に分かりやすく研究を紹介しています。この内容は、Web サイト (<https://scrapbox.io/jsise-rq/>) にも掲載されており、本サイトはプレカンファレンスの参加形態と同様に会員・非会員に関係なくご覧いただくことが可能です。これまでに掲載された同コンテンツを用いながら、活用いただく方法をご紹介します。

また、セッション後半において、「反転+ディスカッションベース」の論文投稿の相談会を継続します。これは、9 年前（2016 年）から、論文執筆チュートリアルに関するコンテンツを事前に視聴いただいた上で、対面でのご相談・議論に臨む相談会を実施しており、ご好評をいただき、本年度も継続するものです。本学会には、一般系論文（一般論文、ショートノート）と実践系論文（実践論文、実践速報）4 つの論文カテゴリがありますので、例えば、論文投稿をしたいが 4 つの論文カテゴリの区別が判然としない方や、実践論文として満たさなければならない基準を知りたい方、研究を進める上でのポイントやヒントが欲しい方、査読における考え方を整理したい方など、投稿に関するあらゆる不安・お悩みについて、編集委員・参加者の知恵を合わせて、是非、一緒に考えたいと思います。

なお、一般・特集号に関わらず今後投稿を予定しておられ、編集委員（Adviser）から論文執筆のアドバイスを受けた方（Advisee）には、次の二つをお願いします。

1. 事前に以下の論文執筆チュートリアルコンテンツ (<https://www.jsise.org/paper/subguide/>) を閲覧（2021 年 4 月発刊の学会誌発刊(38 巻 2 号) の 2 つの記事 ※オープンアクセス）

- 一般系論文、実践系論文の位置づけ、考え方は以下の解説記事・映像をご参考下さい。  
瀬田和久，桑原千幸，仲林清：採録される論文の書き方-誌上チュートリアル

(記事)[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsise/38/2/38\\_380203/\\_article/-char/ja/](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsise/38/2/38_380203/_article/-char/ja/)

(映像)[https://drive.google.com/file/d/1o\\_ozmlgK7Nr4okW42Oe0mmx3ln1QY6V6/view](https://drive.google.com/file/d/1o_ozmlgK7Nr4okW42Oe0mmx3ln1QY6V6/view)

■ 質的データに基づく学習評価の考え方は以下の解説記事をご参考下さい。

田中孝治, 津森伸一: 教育システム情報学における質的データを扱う学習評価のミカタ

(記事)[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsise/38/2/38\\_380204/\\_article/-char/ja/](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsise/38/2/38_380204/_article/-char/ja/)

(映像) <https://drive.google.com/file/d/1ljPKDb4ITHtlPSaK5UcbDozLUSp9oO0/view>

2.プレカンファレンス当日, 投稿予定の研究内容や執筆上のお悩みをプレゼン

(特に 1.の閲覧に基づき, 評価して欲しい「新規性」, 「有用性」をプレゼンで提示下さい)

プレカンファレンス当日は, 編集委員・参加者との対話・議論を通して, 論文執筆へとつながるブレークスルーを見出していただきたいと思います。Adviseeの方は, 事前に参加申し込みをお願いします(募集の詳細は学会員メーリングリスト jnews などでお知らせします。なお希望者多数の場合は選定させていただくことがございます)。学生や若手研究者をはじめ, 投稿を検討されている方も対面・オンラインに関わらずご参加下さい。また Advisee でない方のご参加も歓迎いたします。Advisee のプレゼンや編集委員との議論を聴講していただくだけでも, 歓迎いたします。